

室蘭の人口減少

「うーん、どうしたらいいのかなあ。」

「何を悩んでいるの？ まちの人が減って、だんだんと元気がなくなっている気がして……。どうにかできないかを考えていたんだ。」

「難しいことを考えていたんだね。私も一緒に考えてみるよ！ 室蘭ってどういうまちなのかな？」

「歴史のことなら僕にまかせて！ まず、室蘭は天然の良港に恵まれていることもあって、港を中心に製造業が発展したまちなんだ。」

「鉄のまち」や「ものづくりのまち」ってよく聞かぬね。

「ぼくたちが生まれるよりもっと昔の昭和30年代には、製造業で働く人たちを中心に、人口が毎年3〜4千人も増えていたんだよ。」

「そんなに増えていたの!? でも、昭和40年代以降になると、オイルショックとかの影響で、働く人をだんだんと減らすようになったんだ。」

「そこから減ってきたのね。うーん、そうなんだ。まちを元気にするいい方法ないかなあ。」

「そうだ！ 市役所に行ってみようよ。」

「そうだね、まちが取り

組んでいることを聞いてみよう！

「……というわけなんです。教えてください。」

「まちを元気にしようと考えてくれてありがとう。市の人口は今も減り続けているんだけど、最近は昔と違って製造業で働く人の数は安定していて、逆に増えている年もあるんだよ。」

「それなら、どうして人口は減っているんですか？」

「製造業や医療・福祉以外の働く場所や人が減っていることや、子育て・若年世代が近隣のまちに移動してしまう「社会減」が原因の一つ。もう一つは、高齢化で亡くなる人が増えていることや、15歳〜49歳の女性が減って、出生数が少なくなっている「自然減」で、この二つが同時に起きているんだ。」

「室蘭から人が出ていってしまうことと、産まれる子どもの数が減っているのがポイントなんだね。」

「このままだと平成52年には、6万4千118人にまで減少するとの国の推計が出ていて、市でも人口の減少を抑える取り組みを進めているんだ。今日は、市の取り組みの3つのポイントを説明していくよ。」

「分らないことは、質問してね。」

「はい。」



いままでのまち

これからのまち

—人口減少時代を考える—

-18,457人
(-20.8%)

平成27年(2015)

88,585人

(平成27年実施国勢調査速報値)

平成52年(2040)
人口将来展望







70,128人

(平成27年室蘭市人口ビジョン)



数字で見る室蘭 一日当たりの人の動き

参考：平成25年度版室蘭市統計書

出生  1.5人	死亡  3.2人
転入  8.9人	転出  11.2人
婚姻  1.1組	離婚  0.5組

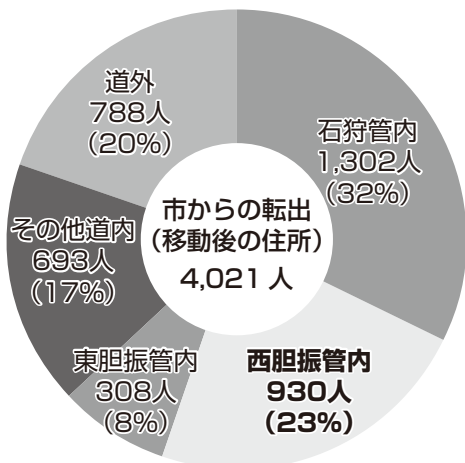
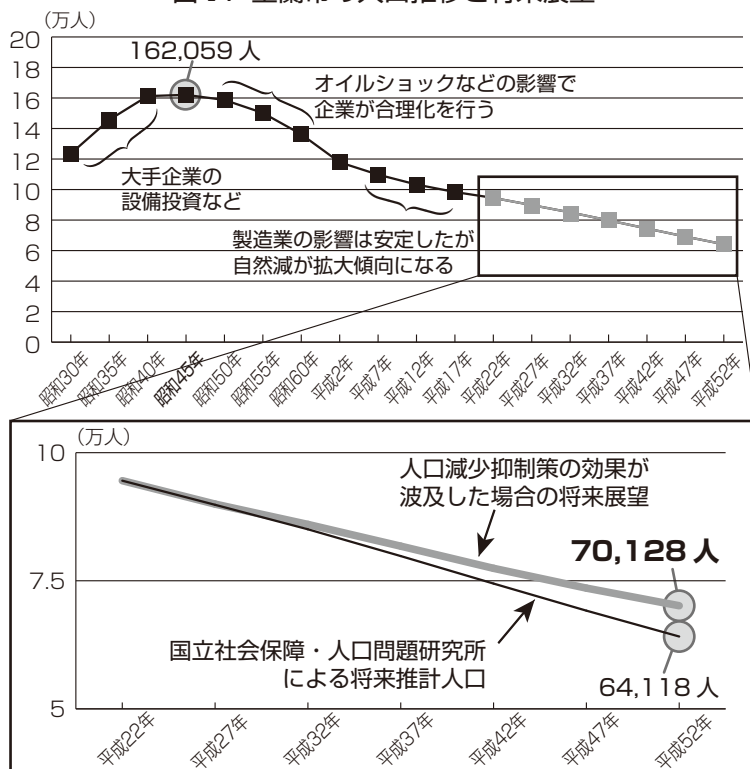


図 I. 室蘭市の人口推移と将来展望



これからの取り組み

まずは、「働くまち」として室蘭市を選んでもらうこと。いろいろな分野の仕事で、みんなが元気に働ける場所を作っていく取り組みを進めているよ。

私も大人になったときに好きな仕事ができるといいな。

そうだね。最近では、西胆振管内の高校生の3割、大学生の9割が西胆振管外に就職しているというデータもあるので、地元で就職してもらえるような取り組みを併せて進めていくよ。君たちもぜひ、室蘭でやりたい仕事を見つけてね。2つ目はなんですか？

働く人に「住むまち」として室蘭市を選んでもらうことだよ。

室蘭で働くんだから、室蘭に住んでいるんじゃないか？

残念ながら、全ての人がそうではないんだ。最近の調査では、室蘭で働く人の4人に1人が近隣のまちに住んでいるという結果が出たんだ。

どうして働くまちに住まないんだろう。

一概には言えないけど、室蘭は家賃や土地代が近隣のまちに比べて高いことが原因の一つだと思うよ。だから、市内に住みたくても住宅事情を理由に子育て・若年世代が移動してしまうんだ。

室蘭は坂が多くて家を建てるのが大変そうでもないか。

これからは、「働くまち」と「住むまち」をセットに、室蘭に定住してもらうための取り組みを進めていくよ。

働くに「住む」。もう一つは？

最後は、室蘭市に住み、結婚や出産・子育てしたい人の希望をかなえること。もちろん、結婚・出産はその人の自由が最優先されることだけど、室蘭で結婚や子育てをしたいと考える人のために、まち全体で応援する環境づくりのほか、国や道とも協力して子育て支援をしていくよ。

みんなでワイワイとできると、まちも元気になるよね。

そうだね。今話した3つの取り組みを進めると、平成52年の人口

は7万128人まで減少が抑制されると見込んでいるんだ。(図I)

何もしないより約7千人も増えるんだね！

そうなんだ。人口減少を止める特効薬はないし、いろいろな取り組みもすぐに効果があるわけじゃないけど、みんなで頑張らないとね。一人一人が室蘭を良くしていくという気持ちを持つことが大切じゃないかな。

すごく大変そうだけど、僕も室蘭が大好きだし、頑張っていかなきゃね。

そうだね！みんなで協力して、元気な室蘭をつくっていきこう！

あなたもこれからの
室蘭を、見つめ直して
みませんか。



室蘭をもっと 魅力あるまちに するために

室蘭の魅力と、まちが元気になるためのアイデアを、室蘭の内と外からの視点を持つ2人にお聞きしました。



中林 咲子さん

岩見沢市出身。32歳。幼稚園から高校までを室蘭で過ごし、札幌の大学に進学後、室蘭で就職。昨年4月に発足した市総合戦略推進会議の公募委員を務めた。

皆さんの思う室蘭のいいところは、今の仕事に就くまで、自分のことに精いっぱい周りを見る余裕はありませんでした。会社経営に携わり、地域と関わることで、室蘭を良くするため頑張っている人たちの姿が見えてきました。

そして昨年、総合戦略の策定に委員として参加した中で、室蘭ではあって当たり前だと思っていることが、他の地域から見れば実は恵まれているということに気が付きました。自然景観や夜景はもちろん、穏やかな気候や新鮮な海産物、大きな病院がいくつもあり、看護や福祉の

人、モノに 恵まれたまち

「働ける人材」が埋もれていると感じます。例えば、空き時間がある学生や元気な高齢者がお互いにサポートし合い、自分に合った仕事に就ければもっと一人一人が活躍できて、人材不足の解消につながるのではないのでしょうか。

専門学校も揃って、国立大学まであります。西胆振地域の交流・物流の拠点にもなっていて、まちのために頑張る人というモノがそろったポテンシャルの高いまちだと思います。また、私が働く介護福祉分野では、よく人手が足りないと言われますが、この地域にはまだ



畑添 出樹さん

福岡県福岡市出身。22歳。福岡市内の高校を卒業し、室蘭工業大学に在学。まちづくりサークル「PAネットワーク」に所属し、ボランティアなどの地域活動に積極的に関わる。

高校時代までを過ごした福岡と比べて、室蘭は「人のつながり」が感じられる温かいまちだと思います。サークルを通して、地域の人と一緒にまちづくり活動をすることは、外から来た私にとって、室蘭を知り、魅力を発見するためのとても良い機会でした。

鉄よりも熱い 情熱のまち

「学生なんだから失敗しても大丈夫だよ。挑戦しよう」と、地域の人に声を掛けてもらうことがあります。こう言ってもらえることをチャンスと思いい、市民活動に積極的に関わって、学んだ知識を地域に生かす学生が増えて欲しいです。

これからは、室蘭に限らず多くのまちで人口減少が避けられない問題になっていき、それと同時にそこに住む人々が持つまちに対する影響力・重要性が大きくなります。数は少なくとも一人一人が輝くことで、魅力ある室蘭をつくっていきけるのではないのでしょうか。鉄のまちとして有名な

市では、市内の人口の現状や動態を分析し、これからの人口減対策の方向性を示した「室蘭市人口ビジョン」と、これを実現させるための具体的な施策などをまとめた「室蘭市総合戦略」を昨年10月に策定しました。

「室蘭市人口ビジョン」と「室蘭市総合戦略」の全文は市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

http://www.city.muroran.lg.jp/main/org2200/machi_hito_shigoto.html

《詳細》企画課 ☎25-2181